

3. 非選択性除草剤

1) 技術の概要

非選択性除草剤を利用することにより、非作付け期間に生育する雑草イネ・漏生イネを枯死させることができます。収穫後のひこばえを防除することにより、その年のこぼれ粃を減らすことができ、翌年の作付け前に出芽する雑草イネ・漏生イネも、耕起前や直播栽培の出芽前に散布することで効率よく防除できます。

2) 必要な資材・機材・条件等

水田に除草剤登録のある非選択性除草剤には、グリホサート液剤（商品名ラウンドアップ マックスロード：グリホサートカリウム塩 48%など多数）、グルホシネート液剤（商品名バスタ液剤：グルホシネート 18.5%）、ジクワット・パラコート液剤（商品名プリグロックス L：ジクワットジブロミド：7.0% パラコートジクロリド：5.0%）があります。どの除草剤も、使用にあたっては使用上の注意をよく読んでからお使い下さい。ジクワット・パラコート液剤は医薬用外毒物のため、取扱いには特に注意してください。

3) 期待される効果

非選択性除草剤はいずれも高い枯死効果を示しますが、グリホサート液剤は効果の発現まで数日を要し、枯死に至るまでに1週間以上かかります。グルホシネート液剤はグリホサート液剤よりも効果発現が早く、ジクワット・パラコート液剤はさらに早く効果が発現します。

4) 注意点（変動条件等）

春に出芽する個体の防除を目的とする場合、雑草イネ・漏生イネが生えそろう5月末～6月初旬が散布適期となります（長野県農試 2012、図1）。非選択性除草剤は生育している個体を枯死させますが、処理後に発生する個体には効果がありません。また処理直後の耕起は防除効果が低下するため、翌日～数日おいてから耕起を行ってください。

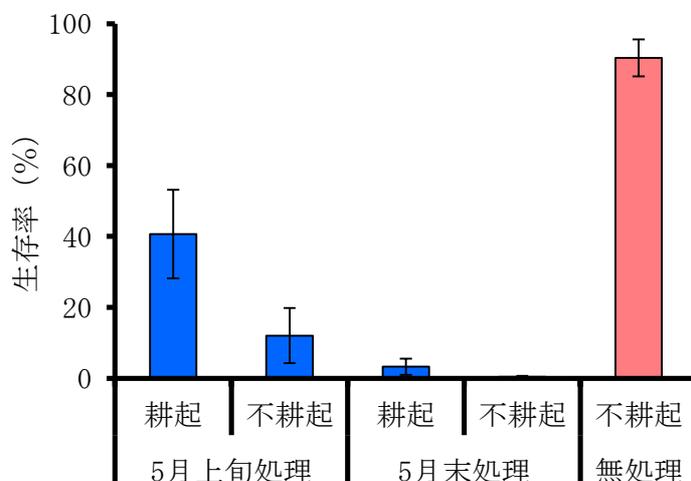


図1 水田耕起前に出芽した雑草イネに対する非選択性除草剤による防除効果
(長野農試 2012)

長野県農業試験場内圃場（細粒グライ土、標高 345m）において、ジクワット・パラコート液剤 1000mL を水量 100L として、2009 年・2010 年の 5 月上旬および下旬に土壌処理（全面）した。

雑草イネ種子は、5 日間の吸水後に水田土壌を充填した金ザルの土壌表面に 100 粒播種し、両年の 3 月下旬に水稲刈取跡の稲わらのない水田土壌に埋設した。播種後に 10cm 深度で土壌を攪拌した耕起、土壌表面播種を不耕起とした。播種粒数に対する残存個体数を生存率として示した。

5) 参考文献等

- ・長野農試 2012. 「雑草イネ総合防除対策マニュアル」

<https://www.agries-nagano.jp/wp/wp-content/uploads/2016/10/2012-2-h02.pdf>